



三角武久

農業・農地を活かしたまちづくり

問 ①多面的機能を有する都市農業を広く理解してもらう取り組み②農のある風景・環境保全の施策の実行性を高める取り組み③新しい都市農業のカタチ「あるある畑」と名付けた「ポニー・畑・人」をつなぐ居場所作りとホースセラピー活動、乗馬や馬の世話を通して心身の治療や機能回復、教育の質の向上を目指す取り組みの支援策等の踏み込んだ対策を講じていくよう強く求める。市の所見は。

答 ①多様な情報ツールを通じて旬の農産物や農業者の取り組み、市民との交流などの情報発信の充実を図る②緑の一つである農地の保全・活用を推進している③狛江市第3次農業振興計画においては福祉農園を推進。引き続き様々な取り組みを検討。

狛江市職員の魅力をさらに高めるため

問 ①超過勤務時間の縮減並びに職員の健康確保に向けた取り組みの課題整理と今後の対応②学生は狛江市に何を求めているのか③狛江市が求める人材の応募が増加する対策は何か④技術系職員の採用現状とともに、女性が活躍できる職場であるPR等の戦略。狛江市の見解は⑤地域と共に考え・育つ地域連携職員の現在の活動状況並びに地域住民と共に学び、まちづくりに活かす取り組みの今後の展開。

答 ①28年度の超過勤務の総時間数が大幅に増加。縮減の取り組みを進めた29年度も増加。定員適正化の面からも検討の必要がある②市の魅力であり、コンパクトさから生まれる仕事のやりがい③採用案内の工夫や市に関する情報発信など④採用案内への先輩職員に関するインタビュー掲載など積極的にアピール⑤昨年度、地区対抗45人リレーで支援、交流を図った。今後は実績や反省点を踏まえ検討する。



栗山剛

安心で安全なまちづくりのために

問 ①窃盗・不審者・詐欺などの犯罪を未然に防ぐために行っている対策は②過去の犯罪などで市や学校の防犯カメラのデータは活用されたか③町会・自治会・商店街で設置している防犯カメラのデータは活用されたか④東京2020オリンピック・パラリンピックに向けて防犯対策準備を行っているのか⑤東京2020オリンピック・パラリンピックの安全対策は警察と連携を行っているのか⑥中学校給食センター防犯対策は⑦市内を一番巡回しているごみ収集車のドライブレコーダー設置状況とその費用負担は⑧市街地浸水時において活動する消防団へ破傷風感染予防対策を行っているのか⑨水防対策で常備している積み土のうの数量と保管場所は⑩水災害時停電対策での電力供給方法はどのように考えているのか。

答 ①窃盗・不審者については学校安全パトロールなど。特殊詐欺については防災行政無線や市内巡回による注意喚起、安心安全情報メールによる周知、駅頭啓発など②市設置は23件、学校設置は14件照会があった。犯人検挙に至ったケースもある③活用されていると思うが、把握していない④都において治安対策、サイバーセキュリティ等4つの視点から「対処要領」を策定し、準備が進められている⑤特に連携はまだ行ってない⑥平日の日は事務室に職員が常駐。夜間や休日は警備会社に委託し、機械警備。調理室は監視カメラを設置⑦一部未設置。業者負担による⑧感染の可能性は理解しているが、特に行ってない⑨防災センターに300袋、水防倉庫に600袋⑩ライフラインはほぼ使用可能と見込むが、各備蓄倉庫に発電機用ガソリンも備蓄しており、懸念は大きくはないと考えている。



西村あつ子

前市長は女性の人権を傷つけ、市政への信頼を失墜させた。市政への信頼回復を

問 ①高橋氏が職員を貶める言動をしてきた事は許されない。1期目からセクハラ行為をし、与党も知っていた。前市長を告発もせず擁護した与党の無責任さが問題を長期化させ、傷を深くした。責任は重い。市政への影響は②セクハラはいつ認識したのか③対応は④行為を認め謝罪したのか⑤隠蔽と言わざるを得ない。なぜ長期間、自浄作用が働かなかったのか⑥庁議での告発への思い⑦問題を長引かせた責任は⑧資料作成者は「怖くて仕事でメモを残せなくなる。職員課に相談に行かなくなる。組織として成り立たなくなるのではないかと心配している」と話している。こうした事を払拭すべき⑨信頼回復への考え

答 ①職員を守る取り組みがされていない。今後の対応は①前市長は野党に対し差別的な態度だった。議会で野党に良い答弁をする職員が叱責されたと聞いている。差別化するよう職員への指示はあったのか。

問 ①市政への信頼が地に落ち、全国的に報道されれば狛江ブランドが低下②(副市長)26年4月頃(参与)26年2月頃③その時は市長に注意、28年11月頃に参与、明政クラブ幹事長とやめるよう忠告。被害者の意向に沿って対応④最初の注意に謝罪はなかった⑤行政の継続性が念頭にあったことは事実⑥調査で把握できたことを隠すわけにいかない。知った以上は自明の元に晒さないと被害職員から信頼されなくなる。職員の信頼を失い組織としての体をなさなくなる危機感があった⑦不徳の致すところ⑧信頼して相談でき、相談を受けた者も安心してメモが残せる体制づくりが必要⑨特別職も包括したハラスメント相談体制の確立が必要⑩職員の相談に真摯に耳を傾け、相談者が求めていることや被害の拡大防止に迅速かつ適切に対処したい⑪非公式な部分においてそのような指示はあったと思う。

【他に、貧困対策について質問】



田中智子

ハラスメントの再発防止に向けて

問 ①高橋前市長のセクハラ問題の対応は市の指針どおりにできたのか。またその原因は②改善できるところはすぐ改善すべき③市長が加害者としても、4年以上解決できなかったことは問題。責任をどう考えるか④課題は⑤今回の問題を検証し、教訓化すべき⑥ハラスメント研修を幹部職員含め、毎年行う検討を⑦ハラスメントを許さない。具体的な再発防止策を検討すべき。

答 ①市長が地方公務員法の懲戒処分等の対象者でないため、規則どおりの対応にならなかった②検討を進めている③(副市長)不徳の致すところ(参与)被害者や市民の皆様が大変申し訳ない④相談員の充実や相談マニュアルの作成、相談者を守る観点から相談記録も検討⑤二次被害に留意し、今後の対策を行いたい⑥積極的に受講するよう促す⑦ハラスメントを許さない決意を持って再発防止に努めたい。

問 ①和泉多摩川駅周辺の商店等の現状の認識は②現状をどう捉え、課題は何か③市としても今後何らかの振興策が必要との認識か④商店街としての新しい取り組みはどのようなことではまったのか⑤和泉多摩川商店街振興組合からの要望内容について⑥振興組合の要望は考えられる内容と思うが見解は⑦和泉多摩川と元和泉と京王線方面へのバス路線拡充についてバス会社に要望を。

答 ①積極的に活動を行っている認識②店主の高齢化や後継者不足、業種業態不足等が問題③商工会等を通じ、商店街の振興に努める④商店街に活気を取り戻したいという思いから始まったと伺っている⑤ほかほか広場周辺にロータリーやイベント広場の整備を求めるもの⑥施設等の整備も重要であると認識⑦引き続き要望していく。



鈴木えつお

高橋前市長のセクハラ問題―市の幹部はなぜもっと早く公開しなかったのか？

問 ①副市長、参与、総務部長に前市長によるセクハラ行為の相談が最初にあったのはいつか。またいつまで続いたのか。件数は何件か②前市長のセクハラは随行先で1時間にわたりお尻を触るなど深刻なもの。なぜ早く公開して解決に当たらなかったのか。

答 ①(副市長)26年4月頃。28年11月までに間接的に何人かの状況は聞いていた(参与)28年11月が最後。4、5件だったと思う(総務部長)26年4月の件は聞いていた②相談者がそれ以上の進展を望まず確証・証拠がない状態で、取るべき方法が考えつかなかった。

問 ①低所得の多子世帯への国保税減免制度をつくるべき②卒業アルバム代補助など就学援助を充実すべき。保護者・先生方への制度説明会を開くべき③ひとり親家庭や高齢者への家賃補助制度をつくるべき④多摩川の土手の階段に手すりを設置すべき。

答 ①全国知事会で要望している。国の動向を注視②子どもの生活実態調査の結果を待ち検討。全生徒に案内配布。教職員は研修等で伝える③居住支援協議会準備会で居住支援サービスの提供内容について協議④土手階段の大半は国の管理のため、今後要望していく。

問 ①この間の経過と現状は②市民団体から都立公園化の要望が出されているが、地元には多くの住民が住んでおり、いまだ合意が得られていない。住民の合意を大前提とすべきと思うが、今後の住民対応はどうかか。

答 ①推進構想策定後、東京都市長会の都予算編成要望や狛江市体育協会の要望を提出した他、都知事と市長の意見交換でも要望した。現在は都市計画区域の変更と役割分担等について協議中②新市長と相談し検討する。